



議会だより

6月定例会

No. 132
2011.7.15発行

一般議案

- 岩手県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少の協議に関する議決 ほか2件
一関市に編入する藤沢町を事務組合から脱退させることについて議決しました。

条例関係

- 平成23年東日本大震災による災害被害者に対する町税の減免に関する条例
東日本大震災による災害被害者に対する町税の減免について、必要な事項を定めました。
- 山田町立幼稚園保育料等徴収条例の一部を改正する条例
国の幼稚園就園奨励費補助金の補助限度額が改められたことに伴い、町立幼稚園の保育料等の減免額を改正しました。
- 災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例
東日本大震災の被災者について、災害弔慰金の支給等に関する法律等の特別措置が講じられたことにより、関係する条例を整備しました。
- 山田町産業振興基金条例の一部を改正する条例
山田町産業振興基金を産業の振興を図る資金に活用することができるように所要の改正をしました。

議員発議

- 特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
東日本大震災の災害復旧・復興費の財源確保に資するため、議員報酬月額を7月から15%減額しました。

議決議案 ダイジェスト

専決処分

- 山田町町税条例の一部を改正する条例の専決処分に関する議決 ほか町税条例関係1件
国民健康保険税の課税限度額を変更したことについて承認しました。
- 普通財産の無償貸付の専決処分に関する議決
旧山田病院を無償で貸付したことについて承認しました。
- 山田町と岩手県との間の平成23年東北地方太平洋沖地震及び津波により特に必要となった廃棄物の処理に関する事務委託に関する規約の協議に関する専決処分に関する議決
東日本大震災により特に必要となった廃棄物の処理に関する事務を岩手県に委託したことについて承認しました。
- 平成22年度山田町一般会計補正予算(第7号)の専決処分に関する議決 ほか補正予算7件
一般会計に2億4,949万円を増額したことについて承認しました。総額83億9,615万円。
- 平成23年度山田町一般会計補正予算(第1号)の専決処分に関する議決 ほか補正予算1件
一般会計に45億8,973万円を増額したことについて承認しました。総額117億2,236万円。

予算関係

- 平成23年度一般会計補正予算(第2号) ほか補正予算4件
一般会計に16億3,263万円を増額。総額133億5,500万円。

あいさつ

議長 昆 暉雄

このたびの大震災によりお亡くなりになられた方々に議會を代表して謹んで追悼の誠を捧げますとともに、被災なされた方々にお見舞い申し上げます。

大震災からはや4カ月が過ぎました。町では単に元の状態に戻す復旧ではなく、新たな価値を加えて「津波から命を守るまちづくり」を基本理念に再び津波による犠牲者を出さぬよう復興計画の策定を進めています。

また、町のいたる所がれきの撤去作業、仮設住宅の建設も進み、入居も始まっており、少しではありますが復興の光が見えてきました。

皆さまの温かいご支援のもと、一日も早く被災された方々の生活再建ができるように、町民と一体となつて、安全な山田町を築くことが我々議員の使命であると信じております。

議員6人が一般質問

佐藤 忠暉議員

復興ビジョンが示される前に

計画通り一歩ずつ前に

質問

3月11日午後2時46分、一瞬にして山田町の情景が一変した。気象庁は十数年前から、今後30年以内に宮城県沖地震が発生する可能性は99%と予測していた。ついにその日が来たかと思った。

今は、町の復興ビジョンが示される前に、できることは済ませておくことが必要だと思いいくつか問う。

①家屋床下のヘドロ除去、家と家との境界線下の細かいがれき撤去、側溝のヘドロや泥の排除等はいつ終わるか。
②くみ取り便所跡地の清掃と消毒は済んだか。

沼崎町長

①家屋床下のヘドロ除去については、自衛隊の行方不明者捜索に伴う作業およびボランティアの協力により完了している。

家と家との境界線下のがれき撤去については、現在建設機械で作業を主に進めている。

側溝のヘドロや泥の排除については、7月下旬までには完了したいと考えている。

②被災跡地の消毒については、自衛隊の献身的な防疫活動により実施され、清掃はこれから取り組む。

山崎 泰昌議員

災害復興について

町民の意見を取り入れて

質問

①10月まで基本方針を発表できないと受け止められ、実情に合わないスピードであるが、町民の理解を得られるか。

②庁内でまとめた案を町民に示し、たたき台とすべきと考える。国、県の動きとは一線を画してでも、計画を策定すべきでは。

③ライフライン確保のために早急に対応しなければならぬ案件を把握しているか。また、対応できるか。

④漁業を支えている水産加工業者、水産物販売店にも漁業者同様の支援が必要だと考えるが町の考えは。

沼崎町長

①5月末に基本方針を発表し、住民懇談会を開催して理解を求めているし、6月末をめどに復興ビジョンの策定を急いでいる。

②復興計画は国、県等関係機関の方針との整合性も考慮する必要がある。

③県に対し要望すべきところは要望しているし、応急復旧については、生活道路、電気、水道等はほぼ確保した。

④災害対応の融資制度に対し支援するとともに、国の災害対応補助事業に対し県と連携して支援する。

木下 志き子議員

防災教育について

避難訓練が生かされた

質問

①3月11日の大災害、各校の防災教育は生かされたか。

②災害によつて年間の授業日数、学校行事に支障を来していないか。

③学校、施設等に昼食が届けられているが、提供者と期間は。

岩船教育長

①各校の防災教育についてであるが、地震と津波の発生時、児童生徒は教員の確かな指示に従い適切に行動したと各校から報告を受けた。普段の避難訓練が生かされたと捉えている。

②年間授業日数については多少の支障はあったが、各学校で工夫しながら年間計画を作成しているので大きな問題はないと考える。学校行事については学校によつて校庭等の利用状況が異なるが、計画されている行事は多少の縮小、延期があつても実施の方向で進める。

③昼食は災害救助法に基づき、県に対して関係課を通じて各学校からの希望数を報告し、弁当の配布をしている。期間は災害救助法で3カ月程度とされているが、実情を考え提供期間の延長をお願いしている。

町の考えを聞く

豊間根 信議員

産業復興に早急な独自策を

国の方針待ち

質問 壊滅的状況の全産業・各業種全てに手厚い支援が求められている。このまま希望を見出せない状況では、若い人たちが次々と町外へ流出し、町の活力が失われる事を危惧する。町の対応策は。

沼崎町長 当面の対策としては、緊急雇用制度の充実に努める。復興計画の中で漁業、中小企業の振興を図り雇用の回復に努める。

質問 町にとって漁業の復興が一番の要になると思う。関連する産業を集約し圧倒的な支援で早急な復興をすべきでは。

伊藤水産商工課長 漁業の早期復興が一致した見解である。国から何ら施策が示されていないので、漁協はじめ市場等からも何の方向性も事業の内容も出せない状況である。

質問 国からの支援が定まらないのはわかるが、町として漁業復興独自策を出すべきではないか。

沼崎町長 国が決めてくれれば県・町は上乘せ支援策を出していける。

質問 前須賀と浦の浜間に運河を通し震災復興特区として大プロジェクト計画で町民に希望を。

沼崎町長 簡単ではないと思うし、防災上からも難しいのではないかと。

佐藤 照彦議員

漁港・魚市場の復旧を

国等へ要望している

質問 ①高台移転・かさ上げについては、住民によく説明し理解と協力を得て計画の策定をすべきである。

②水産業の再出発のためには、「船も養殖も100%公費で」という要望が強い。国がこれに応える具体的施策をとることを要求してほしい。漁港・魚市場の復旧を急ぎ、秋サケ漁に合うようにすべきである。安全な水産加工団地を造成し、早急に加工場が再開するよう支援してほしい。

③仮設住宅の入居期間の延長と低家賃の公営住宅の建設をしてもらいたい。

沼崎町長 ①住民に説明し、理解と協力を得られるよう努める。

②国等への要望については、岩手県沿岸市町村復興期成同盟会で国、県への要望をしている。水産業の復興支援等については、復興計画の提言要望と考

え、計画の参考とさせていた。だ。③仮設住宅については、厚生労働省に協議の上、期間を延長することができるとされているので検討する。公営住宅の建設は復興計画、まちづくり計画とすり合わせ検討する。

黒沢 一成議員

仮設住宅の再利用を

県の方針決定後協議

質問 仮設住宅に関して問う。

①いつまでに入居できるか。

②入居後に仮設間での転居は可能か。

③生活保護が必要な世帯の調査はするか。

④建物が空いた場合、民間へ安く譲り、住居・店舗などとして利用できないか。

⑤トイレにウォシュレットの取り付けなどはできるか。

⑥エアコン・給湯器も家電製品のように持ち出しできるか。

沼崎町長

①7月下旬には全員入居できる。

②入居者のニーズを把握しながら対応する。

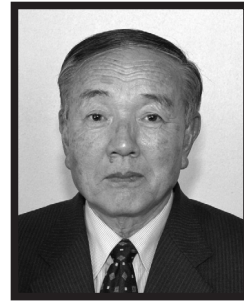
③本人からの相談を待つだけでなく、民生委員や町関係課、県のケースワーカーと連携し、保護が必要な方には制度が適用されるよう努める。

④仮設住宅にはリース方式と買取方式がある。リース方式は返還となるが、買取方式は適正価格で譲渡が可能である。事業主体である県の方針が決まった後で協議を進めたい。

⑤個人負担で設置できる。

⑥エアコン・給湯器は建物の付随品であり、持ち出しできない。

道又秀悦議員が逝去



故 道又秀悦さん

町議会議員の道又秀悦さん（大沢・74）が3月11日の東日本大震災でお亡くなりになりました。道又議員は平成11年4月に初当選以来、3期12年にわたり町民の代表として活躍されました。2期目からは山田町監査委員に議会代表として選任

され、町の会計監査に尽力されました。また、3期目は総務常任委員長として、行政改革や町財政の適正化などについて積極的に取り組まれました。ここに生前の功績をたたえ、ご冥福をお祈りいたします。



山田町復旧・復興特別委員会

東日本大震災による被害の復旧・復興を目指して、議長を除く全議員で組織する「山田町復旧・復興特別委員会」を設置し、町に対して要望を行いました。主な内容は次のとおりです。

- ① 県立山田病院と県立大槌病院を統合して両町境付近に早期に再建されるよう要望すること。
- ② カキの養殖などで収穫できるまでの期間の所得補償制度を検討すること。
- ③ 漁船を漁協が所有するように県や町の支援を検討すること。
- ④ 船越家族旅行村付近の沼を山田湾と船越湾をつなぐ運河として整備すること。
- ⑤ 事業者が自分の家業をする場合にも所得を補償する制度の創設を検討すること。
- ⑥ 学校用地に建設した仮設住宅は早めに移転し、児童生徒の教育環境を改善すること。
- ⑦ 居住場所として町有地を開発し提供すること。
- ⑧ 被災を経験した子供たちを含め住民へメンタルケアの手厚い対応を検討すること。
- ⑨ 被災した消防団の活動拠点を早急に整備復旧すること。

議員出欠表

◎病気入院 □公務欠席
△遅刻早退 ○自己都合

月 日	本会議種別	欠 席 者 等 氏 名
6月8日	第2回定例会	欠席者等なし
6月9日	"	欠席者等なし
6月10日	"	欠席者等なし

議会広報編集特別委員会

- 議 長 黒 沢 一 輝
副 議 長 小 林 隆 成
委 員 豊 岡 根 一 信
" " " 山 崎 泰 昌
" " " 稲 川 勝 憲

▼未曾有の大震災により多くの町民の方々の崇高な人命が失われ、月日が過ぎようとも未だにその深い悲しみは忘れ得るものではありません。今後、二度とこのような悲しみを出さないためにも、残された我々は真摯に反省・検証し、しっかりと心に刻み、町の復興へ向け突き進んでいくことこそ使命だと思えます▼三陸沿岸全域の産業・生活中心部が壊滅的状況の中での復興は並大抵のことではありません。現状をしつかりと把握し最良の対応を考えながらも、10年、20年後の山田町のビジョンを示し夢を保持する町の復興を目指し、町民の皆さまからの負託を受けた責任の重みを果たすことこそ議員の責務と強く感じております▼山田には熱き心がある。みんなの心を一つに、手をつなぎ、たちあがろう山田。（豊間根）

あ
と
が
き

